

茨木工業

2

夢に現実味

「FRP（繊維強化プラスチック）で航空機部品を作りたい」。茨木工業社長の豊留永久は、新分野開拓として航空機部品事業に取り組んでいる。安定した高い技術と徹底した品質管理



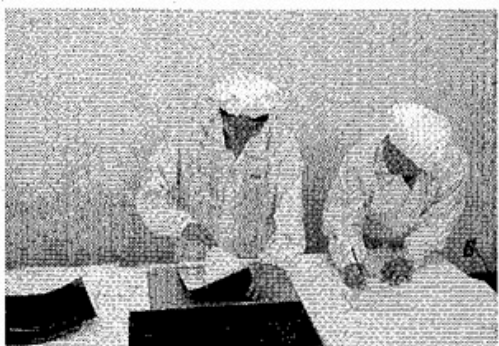
2年かけ、スタートライン

が求められる、製造業の最難関。飛行機が好きなのもあり、豊留は航空機産業参入に夢を膨らませた。自衛隊向けの航空機部品については経験があったものの「民間旅客機の部品製造をしたい」と、新しい道を探ることにした。

FRPで航空機部品

続けるうちに出会ったのが、航空機関連の大手メーカーに勤務していた小塩国次だった。講師として招かれた小塩は、講演後に交流を持った豊留と意気投合。しばらく後に茨木工業へ入社することになる。「本気で航空機産業に乗り出すなら協力する」という小塩の一声で、同社の航空機産業参入が大きく現実味を帯びた。

事業部、発足
同社の航空機事業部が発足したのは、08年10月。豊留と小塩、翻訳担当者の3人でスタートした。「図面や認証取得など、航空機産



「航空機事業部を立ち上げること」で、当社の本気を示したい」と、独立した事業部を設置した豊留。受注の準備を進めることに、増員の必要性を痛感した。一航空機部品製造は材料段階から、細かな検査が必要。専任の担当者置かないと、とても手が回らない。加工を請け負うだけではなく、FRP部品を一から製造し納入することを目指している同社の場合、品質保証だけでもかなりの手順を必要とする。

経験者で構成
事業部の設置後、人材紹介会社を活用するなど採用活動に力を注ぎ、有能な人材を確保。現在は初期のメンバーに加え、品質保証担当者3人、生産技術担当者4人の計7人が加わった。FRPなどの複合材

による、航空機部品製造関連業務の経験者ばかりだ。大手メーカーを定年退職したベテランや、派遣社員として航空機部品業界の経験を持つ若手・中堅社員が集まった。

経験者を採用したことで、工程がスムーズに進む。現在、治工具での実績を重ねており、航空機部品の本格製造に向けて工場にも製造現場経験者を1、2人採用したい考えだ。「2年間かけて体制を整え、スタートラインに立てた。あとは会社として航空機部品製造経験を積み重ねていくことで軌道に乗せたい」。豊留は夢を大空へはせている。

(敬称略)